

## 2025年度事業報告

### 1. 事業報告の総括

特定非営利活動法人エッジは、ディスレクシアを含む読み書きに困難を持つ人への支援を目的として、2025年度も引き続き、啓発活動、音声教材制作・提供、相談・アセスメント、ネットワーク、人材育成、政策提言の各事業を行った。

### 2. 重点事業と実施内容

#### (1) 「読書バリアフリー法」第2期基本計画への対応

これまでの啓発・政策提言活動の成果として、「読書バリアフリー法」第2期基本計画（2025年4月施行）において、ディスレクシアが対象利用者として明記された。これを受け、図書館において、図書館職員等を対象とした講演会やLD疑似体験会を開催するなど、当事者支援および社会的理解の一層の深化を図った。

#### (2) 音声教材の普及・拡大

音声教材の普及を目的に、音声教材「BEAM」の制作・提供（小学校・中学校・高校の教科書、文部科学省委託事業）、小学校国語テストの読み上げ音声の制作・提供（株式会社光文書院の音声読み上げ付きテストで使用）を行った。これらの取り組みは、LD学会で自主シンポジウム発表し、合理的配慮の先進事例として注目され、民間教材会社からの音声化事業の問い合わせにつながった。

#### (3) 読み書きのアセスメント推進

読み書きに関する困りごとを抱える子どもや成人を対象に、相談およびアセスメントを提供した。医療機関からの紹介にも対応した。費用改定の影響により、個別相談・アセスメント件数は前年度比で減少し、年間実施件数は約120件となった。

助成事業により、不登校・定時制高校等における集団アセスメントを実施した。また、「多様な学びに応えたい『できる』につながるヒントブック」を作成・無償配布し、支援につながる情報提供を行った。

ディスレクシア月間では、無料相談会を実施し、読み書き困難の当事者およびその保護者等に対して、適切な情報提供を行った。

#### (4) 当事者の交流の場の拡充

以下を実施し、当事者ネットワークの拡充を図った。

- ・ディスレクシアの子ども向けワークショップを実施（5月、8月）
- ・オンラインによる当事者の居場所提供として「メタ・エッジ」を全8回開催
- ・クラウドファンディングの寄付金をもとに、第3回ディスレクシア・アートコンペティションを開催
- ・成人当事者と研究者が主体となるネットワーク「NODE」定例会を全6回開催
- ・成人当事者の交流の場である「DX会」を対面およびオンラインで毎月継続して実施

### 3. その他の取り組み・成果

#### (1) 人材育成事業

ディスレクシアや発達障害の特性を理解し、適切な支援ができる人材を増やすことを目的として、以下の講座を企画・実施した。

- ・発達障害のこどもを理解する講座（新規開講）
- ・【日本語の】【英語の】読み書き困難指導・支援講座（英語分野は新規開講）
- ・読み書きアセッサー養成講座（J-AWARE）
- ・LSA（学習支援員）養成講座（中止、開講なし）

従来、オンライン（Zoomによるリアルタイム実施）で行ってきたLSA（学習支援員）養成講座を、e-ラーニングの「発達障害のこどもを理解する講座」に組み替えた。2025年度前半を講座制作期間に充てたことに加え、開講が当初予定よりも大幅に遅れたため、当講座の募集・開催期間が限定的となり、受講者数は当初見込みを下回った。

既存の「読み書き困難指導・支援講座」については、英語分野を新規開講し内容の充実を図った。「読み書きアセッサー養成講座（J-AWARE）」と合わせて、人材育成事業の柱となる3つのコースが整った。

#### (2) 啓発事業・社会への発信

10月の「ディスレクシア月間（啓発月間）」を他団体と共催し、過去最高の427名が参加した。

会長・藤堂栄子が当事者かつ専門家として、年間20回以上の講演・セミナーに登壇し、ディスレクシアへの理解の促進を図った。

### 4. 事業全体の振り返りと次年度に向けて

2025年度は、制度面・社会面の双方においてディスレクシア支援の前進が見られた一年であった。一方で、相談件数や人材育成事業における課題も明確となった。

2026年度は、これまでに構築してきたアセスメント、人材育成、当事者支援等の各事業

について、各事業が相互に補完し合い、循環的に機能する体制の構築を図り、エンパワメントセンター構想の具体化を推進する。